宮城野会 会員数 191 名（12/1 現在）

放送大学と宮城野会の一人ひとりをつなぎます

放送大学　同窓会

宮城野会会報

49号

発行日 ： 2024（令和６）年 12 月
発　行 ： 放送大学同窓会
「宮城野会」
放送大学宮城学習センター内
〒９８０－８５７７
仙台市青葉区片平２－１－１
TEL ： 022－224－０６５１
Fax ： 022－224－０５８５
E-mail miyagi-sc@ouj.ac.jp

第一回「だれでも参加できる文化祭・交流会」

会長あいさつ

実行委員長あいさつ

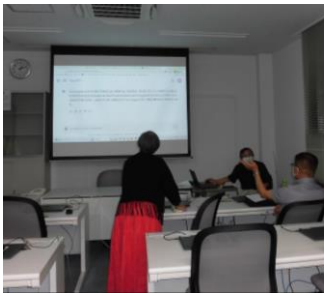
センター所長講話

キーボード演奏

箏演奏

作品展示

展示作品見学風景



パソコンサークル実演及び指導

CONTENTS

２～７　宮城野会 とぴっくす
８～10　招待席 「野蛮」こそ「保守」の心構え
客員教授　尾崎　彰宏
11　宮城学習センターからのお知らせ
12　同窓会宮城野会からのお知らせ

宮城野会の活動を紹介するページです

宮城野会

だれでも参加できる文化祭・交流会

「宮城野会」創設以来、初めての企画「だれでも参加できる文化祭・交流会」を実施しました。誰でも気軽に参加して、共に集い・共に学び・共に語り合うことのできる活動が出来たらいいですね、と役員一同皆で知恵を絞り、企画を立て、実施にこぎつけることがました。

当日は、交流会、作品見学等に約４０名の方が参加してくださいました。参加した皆さんに協力をいただき、楽しく有意義な一日となりました。

だれでも参加できる文化祭・交流会概要

9 月 15 日（日）（宮城学習センター：講義室2）　10:00～14:30

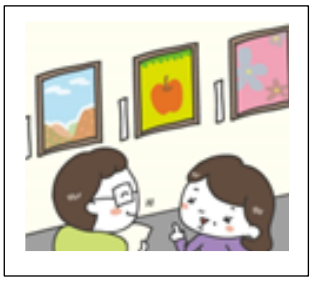
（文化祭・交流会）　10:00～12:30

次第　開会・あいさつ（宮城野会会長　佐々木美枝子、実行委員長　齋藤けさよ）
講話「アートを学ぶ方法：脳科学と社会科学への統合アプローチの開発」
（放送大学宮城学習センター所長　高橋　満　先生　）

一言タイム（参加者から）

キーボード演奏
箏演奏

パソコンサークル　Chat　GTP 実演及び指導



（各サークル展示発表）　10:00～14:30
（宮城学習センター講義室2にて）

参加者・団体
高橋所長：講話、絵画
佐々木文枝：裁縫（ベスト）
佐々木美枝子会長：箏演奏
まなびねっと：掲示物
天文学入門ゼミ：ホワイトボード掲示　（会場：講義室2）

二郷成子：写真、折り紙、キーボード演奏
山の会：掲示物

パソコンサークル：Chat　GTP 実演及び指導　（会場：パソコン室）

とぴっくす

一言タイム

高橋満先生の講話

宮城学習センター所長　高橋満先生の講話をお聞きした後、参加した皆さんとの交流会「一言タイム」を行いました。

作品展示の出品で、演奏発表で、講話を聴きに、展示作品を見に、とそれぞれの思いで参加した皆さんの思いに話が弾み、楽しいひとときになりました

（参加した皆さんから）

・いい機会だなあと思った。次はパッチワークで参加できるかなあ。
・消極的なので、サークルに入れないのだが、このような機会があれば参加できるかなあ、と思う。
・文化祭ということで楽しみにしていた。文化史の歴史を始め、研究をしたいと思っている。かな習字をやっているので、来年くらいには出品できるかなあ、と思う。
・文化祭をずっとやっているのかと思っていたが、第一回ということを初めて知った。天文ゼミに興味をもち参加した。講座を受講することにより知的好奇心が満足できるようになっている。いろいろなところに参加していきたい、と思っている。
・勉強熱心な皆さんの様子をみて、私も学びたいと思っている。みんなに育てられていると思っている。
・去年入学したが、人と人とのコミュニケーションが少ないと思っている。初めて参加して、これまで経験のない分野にも視野を広げていきたい。
・素晴らしい文化祭に初めて参加した。先生と役員の方々に感謝したい。
・（文化祭を）ほしいなあ、と思っていたが初めて開催され、これからも続けてほしいと思っている。展示や講話、演奏など役員は大変だが。
・放送大学を８年かかって卒業した。皆さんの後に続いていきたい。
・放送大学で勉強を続けている友人の様子に自分もついていかなくては、と思い参加した。
・放送大学は一回入るとやめられない、という中毒性がある。

〈佐々木美枝子会長より〉
・現在、同窓会「宮城野会」は７名の役員で運営をしている。人数が少なく大変な面もあるが、初めての「誰でも参加できる文化祭・交流会」ができたことを感謝している。

「だれでも参加できる文化祭・交流会」アンケート結果

１２名の方々から次のような感想・ご意見をいただきました。初めての開催でしたが、良い評価をいただき、役員一同やってよかったと思いました。改善点もいただきましたので、より良い「だれでも参加できる文化祭・交流会」をできるよう、生かしていきたいと思います。

〔感想・意見〕

・交流会・文化祭、多くの人の話を聴けてとても良かった。
・全体的にとても素晴らしかったと思います。内容が多すぎることと素晴らしすぎ（レベルが高い）で、会場がちょっと残念だったと思います、（今後に期待します。）
・サークル活動状況を伺うことができ、又、先生方の多才な面を知り、大変興味深かったです。ありがとうございました。
・一度開催できた意義は大きいと思います。段取りとして、掲示物は貼るスペース（面積）の告知、サポーターの役割分担、会場レイアウトの責任者などが明確化されているとスムーズかと思います。皆さんが意識されるかわかりませんが、持ち時間を伝えたら良かったのでは（私だけ押していると感じたのでは？）
・初めての交流会・文化祭、非常に楽しく待ち望んでおりました。これからも声がけをしていただき、多くの参加者があればと願っています。
・とても初めての文化祭・交流会と思えないくらい、準備等を含めて立派な会でした。次回も参加したいと思います。
・学ぶ仲間の顔が見えるって、いいですね。
・できるだけ、おうかがいしたいと思います。
・とても楽しかったです。

学位記伝達式

９月２９日（日）、宮城学習センターで学位記伝達式が行われました。卒業生の皆さんに佐々木美枝子会長がお祝いの言葉を述べました。また、「宮城野会」への入会受付とバッジの販売を行うとともに、「宮城野会」の活動の様子をパネル展示で紹介しました。

式後は祝賀会を行いました。佐々木会長がお祝いにお箏の演奏で皆さんをお祝いしました。参加した皆さんからは、「８年かけて卒業したが、これからも学習を続けていきたい。」「４回目の卒業だが６回卒業を目指している。」「震災後夫を見送った後細々と勉強を続けてきた。今、生きているから勉強ができると思い、自分の思いが満たすまで勉強を続けて行きたい。人生と一緒に勉強がある。」等放送大学ならではの素晴らしいお話を伺うことができました。

入学者の集い

10 月６日（日）東北大学金属材料研究所２号館　１階講堂で「入学者の集い」が行われました。佐々木美枝子会長が列席しお祝いのあいさつを行うとともに、バッチの販売、活動パネルの展示、学習相談を行いました。

デジタル化が進み、私たち役員も学びについていけるよう学んでいく必要を感じつつ相談を受けました。

平成 24 年度放送大学同窓会連合会通常総会に参加して

副会長　竹内　久子

総会が行われた附属図書館

佐々木美枝子会長の代理として、6 月 1 日(土)、2 日（日）の二日にわたり、千葉にある放送大学（本部）で行われた同窓会連合会総会に参加しました。

幕張駅から２０分ほど歩くと、木々に囲まれた自然豊かな放送大学本部が見えてきます。広々とした敷地内には、管理棟やテレビスタジオのある制作棟や会場となった附属図書館、セミナーハウス、千葉学習センター等があり、放送大学の学びの中枢がここにあるのだと実感してきました。

総会では、提案された議案、役員選任（案）が賛成多数で承認され、兵庫学友・同窓会の南谷雄司氏は会長、はじめ２０名の役員が選任されました。東北・北海道ブロックからは、北海道同窓会の中根恵美子氏が理事に、福島同窓会の西村洋文氏は監事に選任されました。

検討会では本部からの報告と共に、二日にわたる情報交換のうち、半分の地区からの情報報告が行われました。また、岩永学長からの放送大学の現状についての講演も行われました。放送大学ができた時には、まだ大学進学率は今のように大きくはなく、進学したかったが出来なかった人たちも多くあり、そういう人たちのための大学教育の機会が必要だった。しかし、開学から４０周年を迎え、これからの放送大学の在り方も変わり検討していく必要のあることが話されました。また、１０月に行われる４０周年記念式典へ向けへての協力のお願いもありました。

夜の懇親会では、海の見えるレストランを会場にして、それぞれの地区の活動の様子を話し合いました。皆さん会長ということもあって、セミナーハウスに戻ってからの二次会では現状ばかりではなく、これからどうしていけばいいのかなど熱い思いで語る人が多く、夜の更けるまで話が続きました。

二日目は、セミナーハウスの会議室で前日に続く情報交換会が行われました。二日にわたる情報交換会から共通の課題として、高齢化と役員のなり手不足があげられました。「宮城野会」も同様の悩みをもちながら活動をしていますが、新規事業「だれでも参加できる文化祭・交流会」を立ち上げ、実施に向けて準備をしていることを発表しました。同窓会会員ばかりではなく、学生さんにも広く声をかけて参加してもらえるようにと企画を進めていますが、同窓会を知ってもらうことで会員が増えるといいと思いますし、若い人たちが同窓会に興味を持って役員になってくれるといいとも思います、ということを全国の皆さんに伝えました。

課題をかかえている同窓会が多い中で新規事業を立ち上げているということは、素晴らしいですね、という声をいただき嬉しい思いでした。

課題を抱えながらもがんばっている全国の会長さん方との交流を通し、充実した二日間を過ごすことができました。

放送大学同窓会連合会　　第 11 回東北・北海道地区交流会に参加して

副会長　齋藤　けさよ　　理事　二郷　成子

８月３１日～９月１日　「東北・北海道地区交流会」に参加しました。１泊２日の日程でしたが北海道の同窓会の皆様に厚いおもてなしを受けました。宮城野会からは齋藤と二郷が参加しました。二郷は大崎市の古川駅から７時９分スタート、齋藤は角田市からのスタートでした。北海道学習センターに到着したのはちょうど午後１時でした。札幌駅から徒歩だったので遠く感じました。

北海道学習センター

学習センターは 5 階にあり、6 階は大講義室がありました。交流会は 6 階で行われました。

第 1 部は学習センターの山田義弘所長の公開講座から始まりました。私たちの席は後ろから 2 番目だったので、声がちょっと聞きにくいところがありましたが、テキストがあったので、難しい内容でしたが何とか講義についていけました。理解するにはもっと復習しないとわからないものでした。(こういうこと書いたら失礼になりますね。申し訳ありません)　講義テーマは「ネット社会の＜わたし＞は何処に」でした。

内容は第 1 部**「自伝的記憶と自己アイデンティティ（認知科学的観点）」第 2 部「拡張現実時代の自伝的記憶の拠り所」**でした。所長さんから人間の記憶について深く学びました。

交流会の第 2 部は「情報交換会」がメインでした。開会にあたり北海道同窓会の中根会長の挨拶があり、(宮城県で行われた時のブロック交流会においでいただいた方ということを思い出した）明るくて元気な会長さんで交流会の雰囲気が和らいだようです。司会をされた方もすごく上手に進めてくれました。

放送大学の近況紹介や連合会の南谷会長のお話の後、各同窓会の情報交換が行われました。おのおの 10 分制限で･･･という司会の進行に沿って行われたので時間内に終了できました。宮城野会は副会長の齋藤が発表、これから行う活動で「文化祭・交流会」のことなどを報告しました。出席者全員で記念撮影をし、その後閉会となりました。1 日目最後は北大 100 年記念館 1 階「北大マルシェ」に移動して懇親会でした。帰られた方もいましたが、宮城は参加しました。私たちの席は、お名前はわかりませんでしたが、宮城学習センターの荻野所長さんをご存じの北海道学習センターの前所長さん方と同席でした。2 日目の 9 月 1 日は前日の小雨交じりと違い気持ちよく快晴でした。国立アイヌ民族博物館「ウポポイ」へバスで行

きました。とても大きく近代的な建物でした。ゆっくり時間をかけて見学できました。中根会長からバス移動中「アイヌ民族と歴史と文化」と題して講演をしていただきました。先住民族のアイヌの人々と日本人の歴史についてわかりました。

アイヌ語は全くわかりませんが、違う文化を継承されているのが沢山の資料展示品からよくわかりました。体験ホールでの「鶴の親子の踊り」がとても良かったです。私たちは中根会長と離れないよう気配りをして頂きながら見学しました。帰りの機内から見える夕焼けはとてもきれいでした。北海道同窓会の皆さん、宮城野会の皆さんに感謝します。

ウポポイ見学をして学んだこと

副会長　齋藤　けさよ

白老町のウポポイを見学した。前日の小雨模様とは打って変わって青空だった。台風の心配も全くなく素晴らしい天気になった。

中根会長のバスの中でのガイドで、寒い北海道の地で漁業の交易をしていた話を含め、帰ってから改めて、図書館の資料と合わせて多くのことを学んだ。

素晴らしく整備され、沢山の展示品、そしてホールでの民族の踊りを見学した。

アイヌの人々が原住民として北海道の厳しい自然の中で、生活したすべてのものに神が宿っているという。基本展示室に入ってすぐ、6mあまりの熊つなぎ杭と飾った熊を見た。

図書館で調べたら、樺太アイヌが霊送りの儀礼で飾り付けた熊だと知った。また、沢山展示されているきれいに飾り付けというか、刺繍というか、飾りつけされている着物に興味をもち見学した。衣服は「おくみ」がない形になっていた。木の皮で作った伝統的な織物―アットウシという。切り抜き模様の着物、テープ状の布を縫い付けた着物、刺繍模様の着物、チルル（鳥皮衣）テタラペ（イラクサの繊維）アザラシ皮衣などがあることを学んだ。アイヌの人々が厳しい自然環境の中で、自然のものを最大限に活かして生きてきたことを展示物から感じ取ることができた。

パノラミックロビーからの眺めは素晴らしかった。ポロト湖や山並みが一望できた。体験ホールでは歌と踊りがあり見学できた。私は鶴の踊りがとても印象的だった。親鶴が小鶴に飛び方を教えているという踊りでとても小鶴の踊りに親子の情があり良かった。

マスコットキャラクターのトウレッポくんに見送られて帰った。

招待席

「野蛮」こそ「保守」の心構え
―宮城県美術館の移転反対運動から思うこと

放送大学宮城学習センター　客員教授　尾崎　彰宏

始まりは一本の電話からだった。

2019 年の師走、哲学者の森一郎さんから宮城県美術館の移転をめぐって声をあげたいのだがどうだろうかというお誘いであった。ニーチェやハンナ・アーレントの研究者として著名な森さんのお名前はよく知っていたものの、それまでお話ししたことはなかった。突然の電話で驚いたものの、それが縁となり、移転反対の運動の末席に連なることになった。幸い美術館の移転案は、2020 年秋に知事の決断で中止となり、現在の位置で改修ということで決着をみた。その間、シンポジウムや集会で話をしたり、話を伺ったりしながら、私なりに美術館や文化、「保守」とは何かをめぐって考えていたことを書きとめてみたい。

美術館といえば、欧米には誰もが知っているような巨大な美術館がある。たとえば、パリにはルーヴル美術館、ロンドンにはナショナル・ギャラリーや大英博物館（ちなみに美術館や博物館は英語ではともに museum と呼ばれる）が、ニューヨークにはメトロポリタン美術館や近代美術館といった目もくらむほどの美術館があり、広く一般に開かれている。普段は特別美術好きというわけでもないのに、観光で訪れた所に美術館があれば、観光地の目玉の一つとして訪ねることが多いのではないだろうか。さながら巡礼のようでもある。

レジスタンス運動に参加しゴンクール賞作家でもあり、ド・ゴール政権での文化相を務めたアンドレ・マルローによれば、今日、芸術として珍重されている作品はかつては教会の壁を飾っていたものが珍しくなく、宗教的な役割を果たしていたものが、宗教の衰退によって宗教から解放され、芸術作品として生まれ変わったのである。こうした「事件」によって、文化の要が芸術になったのである。教会や権力者のシンボルとして生みだされ、礼拝・称揚されてきた美術作品を過ぎ去った時代の遺物として棄却するのではなく、美術館という新たな館に収納された理由だ。このようにして美術作品は、一般に広く鑑賞できるようになっ

◆ 「招待席」は、客員の先生に原稿をお寄せいただいております。

た。かつて信仰から教会を訪れていた人びとが、美に魅せられて美術館へ足を向けるようになったのである。巡礼が「観光」に姿を変えることで、芸術作品は人びとの感性の涵養に寄与することになった。現代は、人びとの拠り所であった教会や寺院といった宗教にかわって「芸術」がその役割を果たしている。このように芸術作品は、人びとに生きる力と矜持を与えるものである。

芸術の役割はそれにとどまらない。驚かれるかもしれないが、芸術作品は敵の侵入や攻撃を防ぐ最大の防衛システムともなる。第二次世界大戦でも京都や奈良をはじめとして、主要な軍事施設がほとんどない文化的な歴史のある金沢市、弘前市などの地方都市は空襲を免れている。京都などは原爆投下の有力候補に挙がったこともあったが、空襲さえ行われなかった理由の一つには、文化的価値が考慮されたことがあったはずだ。私たちは、芸術がもつ平和への力を過小評価してはならない。平和を守るのは軍事力ではないのである。

江戸から明治へ移るとき、ものの考え方や生活習慣はもとより政治形態にいたるまで、日本社会は一変した。一言でいえば近代化、つまり西欧化することによって欧米列強に対峙する道を選んだ。そのときに、日本は江戸時代に培われたかけがえのない精神的な遺産を放棄してしまった。それは、「忍耐と寛容」の精神である。武士が帯刀するのは、抜いて闘うためでない。それを抜かぬようにじっと耐え、許すという精神を鍛錬するためであった。江戸が灰にならず、日本が新政府と幕府側に二分され、その背後に列強が与する形での戦乱が起きなかったのも江戸時代の精神修養の賜であった。明治はこの精神を忘れた。そして、西洋の近代兵器を身におびて、人びとを戦争に駆りたて、おびただしい血を流した。

フェノロサとともに日本の芸術の価値を世界に訴えた岡倉天心が 1906 年、ニューヨークで『茶の本』を刊行した。そのなかにこんな衝撃的な記述がある。「西洋人は、日本が平和の穏やかな技芸に耽っていたとき、野蛮国とみなしていたものである。ただ、日本が満洲の戦場で大殺戮を犯しはじめて以来、文明国と呼んでいる」（『茶の本』桶谷秀昭訳、講談社学術文庫、1994 年、15 頁）。これはなんとも皮肉なことである！

夏目漱石もやはり近代化していく「文明国」日本について警鐘を鳴らしている。小説『三四郎』の中で、九州の熊本の田舎から東京帝大に進むために上京してきた主人公の三四郎が、車中、日進月歩の勢いで変化する日本のありさまに目を丸くしてその興奮を語る。すると相

席になった旧制一高のドイツ語教師が、このままでは、滅びるね、と若者に冷水を浴びせるという忘れがたい一コマを入れている。天心や漱石が予言したとおり、その後の日本がたどった道は、広島や長崎への原爆投下、日本国民だけでも死者 300 万人を超える敗戦であった。

よく知られていることだが、明治維新で敗れた東北は「白河以北一山百文」と値踏みされたが、それに奮起したのが「河北新報」であった。スローガンは、白河以北から新しい文化を発信するという強烈な反骨であった。あるいは、大正時代に政党政治の土台を築いた盛岡出身の原敬は、「一山」と号していた。それはいうまでもなく、「一山百文」にちなんだものである。つまり「お前らは何の価値もないんだ」と言われたことに対する強い憤りであり、内心に秘められた決意であった。そしてこの激しい反骨精神がむかったのが、新しい文化国家の形成であった。

文化（芸術・教育）よりも「力」（軍事・経済）を優先する「文明化」の歴史は太平洋戦争での敗北によってピリオドが打たれたわけではない。2011 年、福島第一原発での大惨事も、経済優先の政策や規制の不備が絡み合った結果であり、明治以降の「文明化」に内在する問題が顕在化したものである。

それに対して「県美ネット」（宮城県美術館を守る市民団体）が牽引した宮城県美術館の運動は、文化の敗戦をくり返さなかったという点できわめて意義深いものである。草の根の市民運動もまだ捨てたものではない。東北には天心が称賛する「野蛮」、あるいは「保守」（文化の伝統を現代に生かす志）と言い換えられるかもしれない精神が息づいている。そこにこそ私たちの足元を照らす、未来への「希望」があるのではないか。

＜プロフィール＞

１９５５年　福井市生まれ。
１９８３年　東北大学大学院文学研究科博士課程後期退学。
　　同年、弘前大学教養部講師。
１９９８年、弘前大学人文学部教授。
２０００年、東北大学大学院文学研究科教授。
２０２１年、定年により退職。名誉教授。
　　同年より、東北大学総長特命教授。

宮城学習センターからのお知らせ

宮城学習センターウェブサイト

宮城学習センターの最新の情報を掲載しています。公開講演会のご案内等、さまざまな情報を掲載していますので、ご覧ください。

放送大学宮城学習センター **検索**

面接授業の「共修生」を募集いたします

共修生とは、放送大学の学籍の有無にかかわらず面接授業を受講できる制度です。一般の方、卒業生、どなたでも共修生として正規に履修する学生と一緒に面接授業を受講することができます。

2025 年度第 1 学期の募集開始は 2025 年 3 月中旬です。詳細は宮城学習センターウェブサイト「宮城学習センターからのお知らせ」をご覧ください。

※学生が共修生として受講する場合は、単位は修得できません。

公開講演会を開催いたします

日時：2025 年 2 月 8 日(土)　13:30～

講師：栗原　由紀子 氏

尚絅学院大学総合人間科学系社会部門教授

放送大学宮城学習センター客員教授

専門：民法・消費者法

会場：東北大学片平さくらホール（２階）

入場は無料ですが事前申込が必要です。

－申込み先・問合せ先－

放送大学宮城学習センター

電　話：022-224-0651

メール：miyagi-sc@ouj.ac.jp

同窓会 宮城野会からのお知らせ

宮城学習センター
高橋 満 所長による講演会と茶話会のご案内

◆２０２５年２月９日（日）

会　場：宮城学習センター　講義室
時　間：１３：００　～１５：３０
講演者：放送大学宮城学習センター
　　高橋　満 所長
演　題：絵画的鑑賞の教育的意義

講演会後茶話会があります。

【問い合わせ先・申し込み先】
宮城学習センターの窓口・電話
Ｅメールでお申し込みください。

TEL：022－224－0651
E-mail　miyagi-sc@ouj.ac.jp

申し込み締め切り
２０２５年１月２４日（金）まで

「宮城野会」役員募集

自薦、他薦を問いません。わたしたち役員と一緒に同窓会活動をやってみませんか。
我こそは、と思われる方、
来年２月末まで、役員またはＥメール、電話でお知らせください。

令和６年度 年会費納入について

＊会費未納の方に振込取扱票（青紙）お送りしています。
同封の振込取扱票（青紙）を使い、最寄りの郵便局の ATM・窓口で振込みをしてください。よろしくお願いいたします。

・ゆうちょ口座名　放送大学同窓会宮城野会
・年会費　**1,500 円**
・記号　０２２３０-０　　・番号　４７１８８

各５００円　▶ バッジ購入希望の方は、宮城野会役員または宮城学習センター事務室を通してお申し込みください。

おことわり
初めて開催した「だれでも参加できる文化祭・交流会」を特集したので、「会員交流」のページを休みました。

「会員のページ」への投稿募集
封書又はＥメールで宮城学習センター「宮城野会」までお寄せください。